

オプトアウト登録用紙

① 研究課題名

腹腔鏡下ヘルニア根治術（TAPP）導入後5年間の手術経験。前方到達法（鼠径部切開法）との治療成績の比較。

② 研究母体

国立病院機構浜田医療センター外科

③ 研究目的

当院では鼠径部ヘルニアに対して、従来は主としてMesh-Plug法、Direct-Kugel法、組織修復法などの前方到達法による修復術を行ってきました。術後疼痛が少なく、早期の社会復帰が可能であるなどの利点から、近年は全国的に腹腔鏡下ヘルニア修復術の割合が増加していることを受け、当院では鼠径部ヘルニアに対して2019年からTAPP手術（経腹的腹膜前到達法（transabdominal preperitoneal repair; TAPP））を導入しました。導入後5年間におけるTAPP手術と前方到達法の治療経過を比較し、TAPP治療の有用性、安全性について検討します。

④ 利用・または提供する資料・情報の項目

診療記録（カルテ）に記載されている、年齢、性別、手術記録、診療経過など。

⑤ 研究方法

後ろ向き観察研究を行います。当院での診療記録（カルテ）から必要な情報を抽出しでデータ化し、検討します。

⑥ 研究期間

2019年01月～2024年11月

⑦ 資料・情報の管理について責任を有する者（研究責任者・研究代表者）

所属 外科

氏名 渡部裕志

連絡先 0855-25-0505

上記研究に賛同されない患者様は上記連絡先までご連絡ください。